

令和7年度 教育課程特例校実施状況（自己評価・学校関係者評価）

1. 教育課程特別校としての取り組み

本校では、グローバル社会で活躍する女子の育成を目的として、中学生およびダブルディプロマ・コースの高校生（以下、DD生）に対し、日本の学習指導要領に基づく教育に加え、カナダ・アルバータ州の国際的に高く評価されている教育制度を導入している。

特別校として、国語・社会・理科・数学の分野において英語イマージョン教育を実施し、段階的かつ適切な支援のもと、英語の読み書き能力および数的思考力の育成を図っている。

DD生は高校3年次に、日本の高等学校卒業資格を取得するとともに、州統一のディプロマ試験を受験し、アルバータ州の高等学校卒業資格も取得する。

2. 学校評価（自己評価および学校関係者評価）

		自己評価		学校関係者評価	
	評価	現状・課題・反省	総合評価	意見・要望	
指導体制	A	<p>本校には、カナダ・アルバータ州の教員資格を有するカナダ人教員4名に加え、大学講師の経験を有するアメリカ人教員1名、JETプログラムによる教員2名がフルタイムで在籍しており、日本人教員と連携しながら教育にあたっている。日本と海外出身の教員が協働することで、生徒に対して多様性のある教育を提供している。また、北米と日本のカリキュラムを精査・対照し、重複領域の明確化を図るなど、両プログラムの有機的な連携強化に取り組んでいる。特に、日本側のカリキュラムで知識の定着を図り、北米型のプロジェクト型学習においてそれらの知識を現実社会の課題に応用・発展させることができるよう、体系的にカリキュラムを設計している点に特徴がある。これにより、質の高い英語イマージョン教育を実現している。なお、DD生は高校3年次において、ディプロマ試験の受験に向け、必要に応じて放課後の個別指導を受けることができる。</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本校の国際性豊かな教育環境および進学実績に対して、保護者からは概ね高い評価が寄せられている。特に、カナダと日本の双方の卒業資格を取得できるカリキュラムの質の高さや、それにより国内外の大学進学への進路が開かれている点は、本校の大きな魅力として受け止められている。</li> <li>・英語力の育成やICTを活用した学習、主体的・協働的な学びの推進についても、グローバル社会において求められる資質・能力の育成につながるものとして、肯定的に評価されている。</li> <li>・日本側の教育において、本学園の教育理念に基づき、茶道や華道といった日本文化をカリキュラムに取り入れている点が評価されており、生徒が日本人・アジア人としての要素に自覚と自信を育み、グローバル人材に必要な健全な人格の形成につながっているとの意見も寄せられている。</li> </ul>	
		<p>授業内容に関しては、本校では、教科書に依存するのではなく、日本およびアルバータ州のカリキュラムを基盤として、生徒一人ひとりのニーズに応じた授業を設計している。さらに、各学習者の習熟度や関心に基づき、適切な支援を行うとともに、挑戦の機会を提供している。授業活動にはテクノロジーを積極的に取り入れ、批判的</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・より学術的に高度な学習に取り組める環境の整備に向けて、英語力に応じた支援のさらなる充実や、生徒一人ひとりに寄り添ったきめ細かなサポート体制の強化を期待する声がある。加えて、評価方法や学習内容、進学に関する情報について、引き続き丁寧で分かりやすい情報提供が求められている。</li> </ul>	

授業内容	A	<p>思考を促すとともに、生徒中心の学習環境を重視している。加えて、探究活動の要素を取り入れ、知識を日常生活の問題解決に活かすことができるよう思考を促し、英語による意見交換や発表などのアウトプットの機会を豊富に提供している。また、ディプロマ試験に向けた準備を徹底する一方で、大学、さらにはグローバル社会における成功に不可欠な力の育成にも注力している。その一環として、主要教科においてプロジェクト型学習を導入し、協働性・創造性・実社会への応用力の育成を図っている。</p>		
生徒への対応	A	<p>英語力の査定にあたっては、全生徒を対象にアルバータ州の ESL Benchmarking 2.0 による評価を実施している。これにより学習の進捗を継続的に把握し、個別の学習支援計画を作成・実施している。また、生徒一人ひとりが自らの意見や経験を表現できることを重視し、授業評価アンケートを実施している。その結果は教育計画に反映され、生徒の声が学校改善や意思決定に活用されている。授業においては、受け身の学習を避け、生徒中心のアプローチを採用し、生徒の興味・能力・学習ニーズを踏まえ、主体的な参加を促している。このような学習方法は、理解の深化や学習内容の定着、学習意欲の向上を促していると考えられる。国内外の大学進学指導は、随時個別面談等を通して細やかにサポートしている。</p>		
情報提供	A	<p>パンフレットや学校の説明会において、本校の英語イマージョン教育プログラムや教員に関する詳細な情報を提供している。また、生徒には、Google Classroom やロイロノートを活用し、コースならびに授業資料や学習内容を生徒がいつでも確認できる体制を整えている。これにより、欠席時においても学習の遅れを補うことが可能である。さらに、保護者に対して、年 4 回のニュースレターや SNS を通じて、学校の最新情報や生徒の様子を積極的に発信し、家庭との連携強化を図っている。</p>		
効果	A	<p>課題や定期試験などの校内評価に加え、外部英語資格試験の結果からも、生徒の思考力・表現力・英語力の著しい成長が認められる。英語イマージョン教育を受けた後にカナダ語学研修に参加した中学生およびカナダへの長期留学を経験した高校生は、現地の教育活動に円滑に適応し、異文化理解の面においても充実した経験を積むことができた。また、現地では英語を用いて自らの関心に</p>		

		<p>基づいた活動に主体的に取り組むことができ、その過程で自己理解を深めるとともに、将来の進路選択に対する明確な指針を得ることができた。これらの経験は、大学の総合型選抜入試においても大きな強みとなっている。</p> <p>さらに、2026年3月にはDDコース第1期生全員がカナダおよび日本双方の卒業資格を取得し、国内外の希望する大学へ進学した。中には海外大学から奨学金を獲得した生徒も複数名おり、本プログラムの教育効果が具体的な成果として現れている。</p>		
その他	A	<p>英語イマージョンを実施するフロアが整備され学習環境が一層良くなった。思い出の写真や学習成果物が多数展示され生徒の自信につながっている。</p>		